

ふるさとの家

furusato-huis



Newsletter vol.3 28 June 2022

4月に、コロナ規制が大幅に外れ、マスクもなくバスや市電に乗車できるようになりました。平常の日常が戻って参りましたが、ウイルス感染は無くなったわけではなく、コロナウイルスは形を変え我々に襲ってきます。日常生活において、今後も気を抜かないで感染対策続けましょう。さて、「ふるさとの家プロジェクト」のニュースレター第3号をお送りいたします。

アムステルダム「wooncoöperaties¹」

アムステルダム市のプロジェクト「wooncoöperaties」の選考申込に向け、2022年1月に、市とオンライン面接を行いました。このプロジェクトは、市民のイニシアティブによる低・中所得者向けの賃貸集合住宅の実現を目的としており、市は、いくつかの土地を「wooncoöperaties」用として指定しており、指定された用地について段階的に参画者を募り選考を行っています。

¹ <https://www.amsterdam.nl/wonen-leefomgeving/zelfbouw/wooncooperatie/>

このプロジェクトでは、賃料や住人の設定の仕方をはじめ、あらゆる決まりに従う必要があります。しかし、「ふるさとの家」の実現にあたり一番困難と言われているのが土地の取得であり、「wooncoöperaties」に指定されている土地は、低・中所得者用向けの賃貸集合住宅用として売却、すなわち市場価格よりかなり低い価格が設定されることから、「wooncoöperaties」への参画は、「ふるさとの家」の実現を可能にしてくれるかもしれない一つのオプションとして、考慮していくべきであると考えており、参画する機会がある際には、申し込めるような体制を整えるべく、準備をしています。

「Ebbingehof²」オープニング

住民のイニシアティブで実現された集合住宅である Ebbingehof のオープニングセレモニーに、4月22日、行ってきました。前号のニュースレターでお伝えしたように、昨年9月にここを訪れた時はまだ建設中でした。オープニングは、Ebbingehof 主催によるシンポジウムではじまり、「wooncoöperaties」の利便性や将来性について、様々な分野の専門家によるレクチャーがありました。そして、シンポジウムの会場から、皆で列をなして Ebbingehof まで歩いて行きました。セレモニーでは、建築家の吉良森子氏によるスピーチもあり、その場の雰囲気盛り上げてくれました。集合住宅の住人はアーティストの方々が多く、彼らのアイデアがそこここに散らばっています。大きな多目的部屋、中庭には大きな植物、屋上にも緑があります。



² <https://www.ebbingehof.nl/>

Peter Kuenzli 氏との面談

6月7日には、Ebbingehofのシンポジウムでレクチャーをされた Peter Kuenzli 氏の事務所を訪れました。同氏は数多くの wooncoöperaties へのアドバイスを行っており、実現にあたり、核となすのは「土地」、「資金」、「人」であり、共有施設、供給スペースを多くすることで、個別の住居空間を小さくすることができ、それにより手頃な賃料を実現することができる、など「ふるさとの家」のプロジェクトへのアドバイスをたくさんいただきました。



「ふるさとの家プロジェクト」会員

「ふるさとの家」の実現にあたり、最も必要なのは「ふるさとの家」を必要とする人たちの声です。「ふるさとの家」を必要としている人がたくさんいるということを示すことができない限り、土地を探すのも、資金を集めるのも難しく、そこで、賛同者としての会員を募る事を検討中です。近く、皆さまに詳細をお知らせできるよう、努めております。

Stichting Furusato Huis Project 代表 河南笑子
